

陳 情 文 書 表
(令和8年第3回定例会)

陳 情 第 1 9 号	令和8年7月27日受理
付 託 委 員 会	福祉常任委員会
件 名	排泄に課題を抱える障害者の日常生活用具へ排泄予測支援機器の追加認定についての陳情
陳 情 要 旨	
1 陳情の要旨 八千代市内に居住する排泄に課題を抱える障害児・障害者およびそのご家族が、住み慣れた地域で必要な支援を受けながら、安心して暮らし続けられるよう、八千代市において、排泄予測支援機器「D F r e e」を日常生活用具として追加認定いただきたい。 2 陳情の理由 (1) 令和6年3月の障害者保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当該団体者等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい」と記載がある。 (2) 八千代市内には障害を有する子どもとご家族も数多く暮らしており、こうした家庭が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を整えることは、市の福祉施策における重要な課題である。排泄に関する困難は、本人の身体的・精神的な負担にとどまらず、家族の継続的な介助負担、通園・通所・通学・社会参加への影響など、生活全般に大きく波及する課題である。とりわけ、自らの感覚や言葉で排泄のタイミングを伝えることが難しい方の場合、周囲が適切なタイミングを把握できず、長時間の失禁やそれに伴う身体的・衛生的な負担が生じやすい。「D F r e e」は、超音波センサーにより膀胱内の尿量を客観的な数値として可視化し、本人や介助者に対して排泄のタイミングを通知することで、こうした負担を本質的に軽減する機器であ	

陳 情 文 書 表
(令和8年第3回定例会)

る。感覚に頼らず、本当に必要なときにだけトイレへ誘導できることは、本人のストレスを和らげ、家族の介助負担を軽減することにつながる。なお、「D F r e e」は令和4年4月に特定福祉用具として介護保険の適用対象となったことに加え、東京都港区、板橋区、品川区をはじめ、全国の自治体において日常生活用具としての追加認定が着実に広がっている。八千代市においても、市内の障害児・障害者の生活基盤を支える施策として、本機器の早急な追加認定が強く望まれる。

- (3) 排泄予測支援機器「D F r e e」は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿の溜まり具合を0～10で数値化が行われる。その数値は専用タブレットやスマートフォンで確認でき、排尿のタイミングを予測し排尿機会を本人または介助者に通知することが可能。「D F r e e」を装着し、通知のタイミングで声かけを行うことで、感覚や時間でトイレ誘導をするのではなく、膀胱に尿が溜まったタイミングで声かけを行える。完全にトイレで排泄できる段階までは成功していないが、中長期的に活用することで、本人が通知を元に（尿意を感じて）トイレへの訴えができるようになるのではと期待をしている。このように「D F r e e」は適切なタイミングで尿意を感じることができない障害者にとって非常に有用である。排泄に悩みを抱える障害者が負担少なく購入できるよう、排泄予測支援機器「D F r e e」を日常生活用具として追加認定いただきたい。